

■ 巻頭言

「センターがこれから目指す方向は？」

筑波大学特別支援教育研究センター長 宮本 信也

筑波大学特別支援教育研究センターは、昨平成 26 年、設立 10 周年を迎えました。10 年の節目を超えた本年、特別支援教育研究センター長として着任いたしました。10 年一昔と申しますが、最近では、二昔にも三昔にも感じられるような気がいたします。状況の変化、その変化に対応した組織や環境の変化が素早く、常に何かの作業に追われているという時間の流れを過ごしているからだろうと感じています。



次の 10 年に向かう 1 年目にいる私たちは、これまでの活動の意義を失うことなく継続するとともに、こうした情勢を踏まえた活動を考える必要があるように思います。十分な討議と準備の上に行う比較的長期間の研究や事業活動と 1 年か 2 年単位で小さくとも一つの結果を出せる研究や事業を組み合わせ、長期の展望とその時点でのニーズの両方に応えられる活動を並行して行うこともよいかもしれません。例えば、わが国で唯一、自閉スペクトラム症も含んだ 5 校の附属特別支援学校と連携している本センターの特色をこれまで以上に活用し、特別支援教育に関する有機的・学際的な総合研修プログラム開発なども考えられるでしょう。

また、本センターは、障害科学に関するわが国有数の研究者集団（障害科学域）と障害のある人たちへの長い教育実践の歴史を土台にしていますが、その成果を必ずしも十分には発信し切れていないように感じる場所があります。センターの事業活動や研究業績を、国内はもとより広く国外に向けて積極的に発信することで、センターのみならず日本の特別支援教育の実力を世界に周知することも考えてよいように思います。

このような研究や発信活動を持続的に行うためには、障害科学域の先生方や 5 附属特別支援学校に留まらず、教育開発国際協力研究センター（CRICED）や人間系さらには分野の異なる領域との連携活動をより活性化していくことが重要と考えております。関係する組織や先生方には、これからのますますのご協力とご支援をいただけますようお願いさせていただく次第です。

センタースタッフ紹介

今年度の特別支援教育研究センターは、センター長をはじめ、以下のスタッフで運営していきます。宜しくお願いします！



柘植雅義 (障害科学域)

この4月で2年目になりました。特別支援教育研究センターがもっと魅力的なセンターになるよう、取り組んでいきたいと思っております。そして、そのためにも、皆様から、センターへの期待をいろいろ教えてください。



左藤敦子 (障害科学域)

教材・指導法のデータベース構築やアフリカ研修生の受入等の事業を通して、多くの附属学校の先生方とお話しをしてみたいと思っております。文京校舎へお越しの際にはぜひお声かけください。



吉沢祥子 (附属桐が丘)

教育現場で学習に困難を示す子ども達への支援が益々重要視されています。インクルーシブの潮流の中で特別支援教育の専門性とは何か？改めて考える毎日です。



岡 典子 (障害科学域)

昨年度は半年間、研究のためにドイツに滞在しました。いつもとは違った場所から日本を見ることで、日本の特別支援教育の優秀さを改めて感じました。そして、この「優秀さ」にさらに磨きをかけていくためにも、5附属の先生方の力がぜひ必要であると痛感しています。



山中健二 (附属聴覚)

各附属学校や研修生の先生方の所属校の子どもたちの様子や特徴的な取り組みをお聞きすると、いつも新たな発見がありとても興味深く感じています。今年度もよろしくお願ひいたします。



宮崎善郎 (附属視覚)

センター勤務3年目となりました。今年度は教材・指導法データベースの一般公開に向けて、全力で取り組みたいと思っております。



阿部崇 (附属大塚)

本年度で2年目となります。昨年度は、現職教員研修生と関わる中で、彼らが大きく成長をする様子を見ることができ、大きな収穫となりました。今年度は現職教員研修生の皆さんに負けないように自分自身も成長していきたいと思っております。よろしくお願ひします。



小曾根和子 (附属久里浜)

他の附属学校や現職研修生の先生方と一緒に仕事をする機会を得て、沢山の刺激を受けています。勤務2年目の今年度は、このことを生かして、先生方のお役に立てる充実した事業や情報を提供していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

■センター事業の紹介

◆連携・コーディネート機能◆

本センターは、障害科学域、大学院人間総合科学研究科障害科学専攻、附属特別支援学校及びその他の関係機関との連携を支援するために、次の2点に重点をおき取り組んでいます。

- 前記の組織間の教育研究における連携活動の拠点形成
- 前記の組織との連携による特別支援教育研修・啓発の拠点形成

運営委員会・・・障害科学域等、附属学校教育局、附属学校間の連携事業や学外の関係機関との連携事業に関する事項および、本センター運営に関する事項の検討を目的として開催しています。

5 附属連絡会議・・・各附属特別支援学校より選出された委員とセンタースタッフで構成され、附属特別支援学校間の連携事業に関する実務的調整および運営を目的として開催しています(構成委員は次ページ参照)。今年度の5附属連絡会議では、従来の機能に加えて、附属間の連携研究のテーマとして「教材」を扱っていきます。

研修事業・・・特別支援教育の専門性の向上及び理解・啓発を目的とした国内外を視野に入れた研修を実施しています。

◆教員研修機能◆

現職教員研修事業は、特別支援教育体制の推進のために本センターの中核的事業として平成17年度より発足しました。指導法において専門性の高い教員及び特別支援教育コーディネーター養成のため、一定の教育経験を持つ教員等を対象に、附属視覚特別支援学校、附属聴覚特別支援学校、附属大塚特別支援学校、附属桐が丘特別支援学校及び附属久里浜特別支援学校とセンターでの講義・演習、また、関連学群や大学院専攻での講義聴講を組み合わせた長期研修プログラムを提供し、特別支援学校及び特別支援学級等教員の専門的実践力の更なる向上に取り組んでいます。また、平成21年度より、海外からの現職教員の受け入れを開始し、国際教育協力にも貢献しています。

■平成27年度現職教員研修開講式

4月2日に、特別支援教育研究センターの現職教員研修開講式を開催しました。今年度は6名の研修生を迎え、附属特別支援学校を実践研修のフィールドとし、プログラムがすすめられます。

(次回の通信から、研修生の皆さんのコラムがはじまります。ご期待ください！)



現職教員研修生の勤務先および主たる研修校

氏名	勤務先	指導教員	主たる研修校
岩田理恵	埼玉県立特別支援学校塙保己一学園	佐島 毅	視覚特別支援学校
奥田裕幸	北海道手稲養護学校	安藤隆男	桐が丘特別支援学校
小野 勝	千葉県立君津特別支援学校	柘植雅義	大塚特別支援学校
鈴木 裕	静岡県立沼津聴覚特別支援学校	左藤敦子	聴覚特別支援学校
関口一秋	千葉県市川市立高谷中学校	柘植雅義	大塚特別支援学校
南館早苗	千葉県立松戸特別支援学校	安藤隆男	桐が丘特別支援学校

■ 5 附属連絡会議構成員

5 附属連絡会議は、センタースタッフと附属特別支援学校 5 校の教員（下表参照）で構成され、センターと附属特別支援学校との連絡・調整及び、学校間の連携事業を推進するものです。教材とその指導法を中心とした各校の取組等についての情報を交換し合い、データベース構築を更に進めていきます。

附属視覚特別支援学校	浅野 慎子	左振 恵子	中村里津子
附属聴覚特別支援学校	有友 愛子	長岡 康彦	佐藤 文昭
附属大塚特別支援学校	安部 博志	森澤 亮介	若井広太郎 夏目 保男
附属桐が丘特別支援学校	加藤裕美子	鈴木 泉	
附属久里浜特別支援学校	稲本 純子	遠藤 翔	

■ 附属ニュース

※順番に各附属のニュースを扱っていきます

(附属視覚特別支援学校)

(附属桐が丘特別支援学校)

五月晴れの5月1日（金）、センターの現職教員研修生及び筑波大学内留学生8名が本校見学のため来校しました。概要説明後、幼稚部、小学部、中学部、高等部、専攻科の各授業の様子、情報機器、治療室、寄宿舎の施設を見学しました。見学後の懇談では、視覚に障害がある子どもたちの抱えている困難さや配慮事項、学習指導形態等について質問が出されるなど、大変熱心に視覚障害教育の現場を見学いただきました。



4月29日（水）6名の卒業生を招いて高等部生徒との進路懇談会が開かれました。高等部卒業後の進路を真剣に考える重要な時期に来て、希望する進路別に3つのグループに分かれた生徒達は、先輩達の体験に基づいた話を質問も交えて大変熱心に聞いていました。先輩達は困難な点をどう乗り越えたのか、何を最優先して進路を選択したのかなど、生徒達には、非常に貴重なアドバイスとなりました。



「筑波大学特別支援教育研究」第10巻への投稿論文等を募集しています。

センターでは「筑波大学特別支援教育研究」を年1回発行しています。第10巻の論文等を募集します。投稿を希望される方は期日までに以下の5項目を編集委員会までご連絡ください。

- (1) 執筆代表者名、所属
- (2) 表題、キーワード（3つ）
- (3) 論文の種別【学術論文、実践報告】

※論文の種別につきましては、編集規定をご覧ください。

- (4) 連名著者の全員の氏名と所属
- (5) 執筆代表者の連絡先（自宅または勤務先の住所、電話番号、メールアドレス）

○申込先：特別支援教育研究センター 編集委員会 宛

○メールアドレス：snerc@human.tsukuba.ac.jp

○Fax：03-3942-6938 ※ホームページより申込用紙をダウンロードできます。

○住所：〒112-0012 文京区大塚3-29-1

申 込 〆 切：平成27年7月10日（金） 原稿提出〆切：平成28年1月5日（火）

申込はできるだけ電子メールでお願いいたします。件名に「筑波大学特別支援教育研究投稿申込」とお書きください。また、編集規定、執筆規定、執筆要項は、特別支援教育研究センターのホームページにてご覧いただけます。

なお、投稿希望受付後に、担当者より編集規定、執筆規定、執筆要項を、改めて送付します。

特別支援教育研究センターHP：<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>

問合せ先：特別支援教育研究センター snerc@human.tsukuba.ac.jp